

優秀賞

一般建築物の部

建築主：公益財団法人 日本サッカー協会

設計：三菱地所設計・戸田建設一級建築士事務所設計共同体

施工：戸田建設株式会社千葉支店

所在地：千葉市美浜区美浜11

～サッカーを通じ「夢」を描き・育み・叶えるために創出された地域に開かれた拠点～

高円宮記念JFA夢フィールド



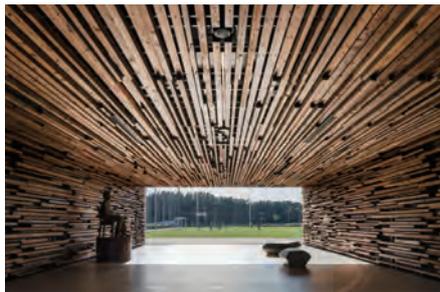
サムライの刀・なでしこの薙刀を連想させるクラブハウス正面外観

千葉県幕張海浜公園内に、日本代表を含むサッカー選手が集う施設が誕生した。選手達の集中や守秘の観点からすれば、閉鎖的なプランもあり得ただろうが、地域の人々が集う公園内という立地を活かし、開かれた計画となっている。高円宮憲仁親王殿下は生前に「30年前の代表選手と現役の代表選手と高校生と小学生が同じボールを蹴るといふ姿」を望むお言葉を述べられているが、公園内の動線に美しく収まった緑のフィールドを見ると、まさにその光景が目浮かぶようである。

クラブハウスは、刀と薙刀からインスパイアされたという天に続く大庇の曲線ラインが印象的で、たおやかな雰囲気と気高さが共存し、その鋭さには強い意志を感じる。それを照らすライトもエントランスに自然と促されるように絶妙な光の強弱が創り出されていて説明がいらぬ。大庇のエッジから室内に続く木の流れや、エントランスのデザインは、BIMを用いたことで立体的で躍動感・疾

走感などの印象創出に成功しているが、寸分の狂いも無いディティールを見ればそれを支える丁寧な施工にも気付く。残念ながら紙面の都合で全ては紹介できないが、他にも、クラブハウスと富士山を繋ぐ直線上にメインフィールドのセンターラインを重ねるなど、幾つものストーリーに彩られており、多大な労力を惜しまずに丁寧に造りあげられたことが伝わってくる。

このような場に出会うと、建築から生み出される様々な人々の交流(建設時を含め)が思いを紡ぎ、文化を育て未来への礎となることを再認識させられる。長く愛される施設となるだろう。(加藤 未佳)



メインピッチへ流れるよう到来者の視線を誘うエントランスホール



高円宮記念JFA夢フィールド俯瞰

(撮影全て/株式会社 川澄・小林研二写真事務所 日吉祥太)